

教えて! 市立病院

〈第 137 回〉

しん ふ ぜん

心不全とお薬の大切なお話

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

心不全という病気は、心臓のポンプの働きが弱くなって、体の隅々に血液を送る力が足りなくなる状態です。息切れやむくみ、疲れやすさなどの症状があり、放っておくとだんだん悪くなり生命を縮める病気です。心不全の原因には高血圧や心筋梗塞、心臓の弁の病気などがあり、年齢とともに患者さんは増えていきます。

この心不全とうまく付き合っていくためには、塩分を控えた食事や無理のない運動など生活習慣に気を付けることに加えて、お薬を正しく飲み続けることがとても大切です。これを「内服アドヒアランス」といいます。ちょっと聞き慣れない言葉ですが、「薬を忘れずに、自分でしっかり飲み続ける



【今月の医療職】

薬剤部 薬剤師

ふなやま ひろふみ
船山 洋史 さん

こと」と考えてください。

心不全の薬には、心臓の負担を軽くしたり、余分な水分を体の外へ出したりする働きを持つものがあります。症状が落ち着いたように思えても、薬をやめると状態が悪くなり、実際に再入院となる患者さんは多くいらっしゃいます。

薬の数が多くて不安になったり、「本当に必要なの?」と疑問に思ったりすることもあるかもしれません。そんなときは、遠慮せずに医師や薬剤師に相談してください。家族の支えも大きな力になります。

毎日お薬をきちんと飲むことは、心不全の悪化を防ぎ、元氣な生活を続けるための大切な一歩です。飲み忘れが気になる人は、この機会に服薬の習慣を見直してみましょう!